

## 第9章 事業に係る環境影響の総合的な評価

### 9.1 継続して講じる必要のある環境保全措置の項目及びその理由並びに継続して行う必要のある事後調査の項目及びその理由

本項目に係る平成 26 年度の事後調査計画(案)を表 9-1 に、事業実施区域及びその周辺位置図を図 9-1 に示した。

N-4.1 については、工事が完了していることから、平成 26 年度も継続して存在・供用時の調査を実施する。また、N-4.2 については、残工事終了後に存在・供用時の調査を行う。ただし、ヘリコプター着陸帯は完成していることから、赤土等による水の濁り調査(下流河川での SS 濃度、濁度)、植物調査(林内の気温、湿度、影響範囲 50m 内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況、早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況)については、春季から実施する。なお、N-4.2 の残工事については、着陸帯進入路の一部のみであり、1 ヶ月程度で終了する予定である。

N-4 地区の北西側の土砂置場については、今後、張芝等の恒久対策を実施予定であるが、それまでの間は、シート被覆による赤土等流出防止対策を継続して実施する。また、北西側と西側の土砂置場については、「工事による副次的影響を復元した箇所における植生状況」の調査として、張芝後に植生の回復状況について確認する。

新たに工事を開始する N-1 地区においては、昨年度までと同様に工事前～工事中に係る環境保全措置と事後調査を実施する。

表 9-1 事後調査項目及びその内容 (1/3)

調査項目	調査回数・期間	調査地点	調査手法
騒音	建設作業騒音	【工事中】 ・ピーク時に年1回	・高江、車集落の計2地点 騒音レベルは、JIS Z 8731に基づき地上高1.2mにて測定(6:00～22:00)。
	道路交通騒音 交通量	【工事中】 ・ピーク時に年1回	・東村平良、国頭村安波の計2地点 騒音レベルは、JIS Z 8731に基づき地上高1.2mにて測定(6:00～22:00)。 交通量は、車種別に上下線方向を計数。
	ヘリコプター騒音	【供用時】 ・通年	高江集落の1地点 自動測定機器による観測
赤土等による水の濁り	下流河川でのSS濃度、濁度	【工事中】 ・平常時:1回/季 ・降雨時:2回程度 【存在・供用時】 ・平常時:4季 ・降雨時:2回程度	・N-1地区の流下経路(図 9-2参照) ・N-4.1の1地点 ・N-4.2の1地点 採水した試料を定められた方法に準じて分析を行う。また、降雨時は自動採水器による採水を行い、試験室内で分析を行う。
	濁水処理水のSS濃度	【工事中】 ・濁水処理水の放流時	・N-1の濁水処理設備の排水口(図 9-2参照) 処理水を採水し、透視度を測定し、SS換算を行う。
	河川の赤土等の堆積状況	【工事中】 ・1回(造成工事終了後)	・N-1地区の流下経路(処理排水の放流先) 造成終了時において、河川底質中懸濁物質含量簡易測定法により分析。
植物	流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布状況	【工事前】 ・1回(梅雨期または台風時期) 【工事中】 ・1回(梅雨期または台風時期、または土工事実施中)	・N-1地区の流下経路(処理排水の放流先下流。図 9-2参照) 下流河川を踏査し、貴重な植物種について、生育場所と生育状況について記録する。また、溪流河岸植生については、植物社会学的調査手法により把握する。
	貴重な植物種の移植後の生育状況	・年4回	・貴重な植物の移植場所 移植株について生育状況を確認し記録する。
	林内の温湿度	・連続観測	・N-4.1、N-4.2 ・N-1(a)、N-1(b) 自動測定機器による測定。
	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況	【工事前】 ・1回 【工事中】 ・1回/季 【存在・供用時】 ・4季	・N-4.1、N-4.2及びN-1(a)、N-1(b)の無障害物帯縁辺から50mの範囲 ・植生断面図は東西、南北方向 調査範囲内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況の把握。また、植生断面図の作成。
	早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況	【工事中】 ・1回/季(植栽後に実施) 【存在・供用後】 ・4季	・N-4.1、N-4.2の早期緑化帯 ・N-1(a)、N-1(b)の早期緑化帯 早期緑化帯(マント群落・ソデ群落、無障害物帯)の地点に調査方形枠を設置し、植物種の生育・分布状況等を記録。
	工事による副次的影響を復元した場所における植生状況	・4季(植栽後に実施)	・工事による副次的な影響場所(N-4地区の土砂置場。図 9-3参照) 工事による副次的な影響が生じた場所において、植生の回復状況について、樹種等の現場記録及び写真撮影。

表 9-1 事後調査項目及びその内容 (2/3)

調査項目	調査期間・回数	調査地点	調査手法
動物 事業実施区域における貴重な動物種の生息状況	【工事前】 ・1回	・N-1(a)、N-1(b)の事業実施区域(着陸帯・無障害物帯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哺乳類 目撃法、フィールドサイン法、バットディテクターによる確認等</li> <li>・両生類 目撃法、鳴き声、捕獲確認</li> <li>・爬虫類 目撃法、捕獲確認</li> <li>・鳥類 ラインセンサス法、ナイトセンサス法</li> <li>・昆虫類 目撃法、任意採集、ライトトラップ、ベイトトラップ</li> <li>・魚類 目視観察法、捕獲法</li> <li>・底生動物(貝類、甲殻類、水生昆虫類) 目視観察法、捕獲法</li> <li>・クモ類 見つけ採り法、捕獲法(スウィーピング法)</li> <li>・陸産貝類 見つけ採り法、捕獲法(スウィーピング法)</li> <li>・土壌動物 任意採集</li> </ul> <p>なお、事業実施区域内で確認した貴重な動物種については、周辺の類似した環境へ移動する。</p>
流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況	【工事前】 ・1回 【工事中】 ・1回	N-1(a)、N-1(b)の流下経路(処理排水の放流先。図9-2参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両生類 目撃法、鳴き声、捕獲確認</li> <li>・魚類 目視観察法、捕獲法。</li> <li>・水生昆虫類 目視観察法、捕獲法</li> </ul>
建設機械の騒音の状況及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況	【工事前】 ・1回 【工事中】 ・1回	N-1地区のヘリコプター着陸帯の直近の繁殖地	現地踏査により繁殖場所及び繁殖状況を記録する。建設機械の騒音は、工事中にJIS Z 8731に基づき地上高1.2mにて測定。
工事用車両の走行に伴うロードキルの状況	【工事中】 ・3回	ヘリコプター着陸帯への進入路(工事用車両の走行ルート)	目視により路上における貴重な両生類、爬虫類のロードキルの状況を把握。
周辺林内の乾燥化による貴重な動物種の生息状況	【存在・供用後】 ・4季	N-4地区の事業実施区域を含む半径約500mの範囲(図9-4参照)	貴重な動物種(哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、鳥類、クモ類、陸産貝類)の生息状況調査。調査方法は「事業実施区域における貴重な動物種の生息状況」とほぼ同様。
訓練車両の走行に伴うロードキルの状況	【存在・供用後】 ・4季	N-4地区	目視により路上における貴重な動物種の出現状況及びロードキルの状況を把握。
ノネコ、マンガースの生息状況	【存在・供用後】 ・4季	捕獲トラップ ・N-4地区内 自動撮影装置 ・2ヶ所程度	捕獲トラップの設置及び自動撮影装置による記録。 (設置場所は調査結果を基に 適宜検討)
ヘリコプター飛行時の騒音及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況	【存在・供用後】 ・繁殖時期	N-4地区のヘリコプター着陸帯の直近の繁殖地	事業実施区域周辺周辺の貴重な鳥類やカエル類の繁殖状況を記録する。また、ヘリコプター騒音については、騒音レベルをJIS Z 8731に基づき測定。

表 9-1 事後調査項目及びその内容(3/3)

	調査項目	調査期間・回数	調査地点	調査手法
生態系	ノグチゲラの人工採餌木の利用状況	【存在・供用後】 ・4季	N-4地区の人工採餌木の設置場所(3ヶ所)	目視により、採餌跡等の利用状況の確認
	コウモリ類の巣箱(バットボックス)の利用状況	【存在・供用後】 ・4季	N-4地区の巣箱(バットボックス)の設置箇所	設置後に目視及び双眼鏡による確認
	生態系注目種の生息・繁殖状況	【存在・供用後】 ・4季	N-4地区の事業実施区域を含む半径約500mの範囲(図 9-4参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノグチゲラ ライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録。</li> <li>・ヤンバルクイナ コールバック調査及び踏査中に確認した繁殖行動の記録。</li> <li>・ホントウアカヒゲ ライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録。</li> <li>・リュウキュウヤマガメ ライン踏査を行い、確認場所や行動様式を記録。</li> <li>・ヤンバルテナガコガネ 樹洞を探索し、生息状況を記録。</li> <li>・イシカワガエル等の山地性カエル類4種 繁殖期に沢を日中及び夜間に踏査し、生息や繁殖状況、繁殖場の位置を記録。</li> <li>・オキナワミナミヤンマ 成虫は、踏査により確認地点を記録、幼虫はタモ網による確認。</li> <li>・アオバラヨシノボリ、キバラヨシノボリ 調査範囲内の河川において、確認位置や繁殖状況を記録。なお、アオバラヨシノボリについては、成魚(雄・雌)、未成魚、浮遊仔魚の別に記録を行う。</li> <li>・ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ 生息が予測される場所において夜間踏査を行い、バットディテクターによる確認。</li> <li>・オキナワトゲネズミ ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡等)を記録。</li> <li>・リュウキュウイノシシ、ハブ、ヒメハブ ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡等)を記録。</li> <li>・マングース、ノネコ ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡等)を記録。</li> </ul>
景観	囲繞景観	【工事前】 ・1回 【存在・供用後】 ・4季	・N-1地区 ・N-4地区	工事前後において景観区分の比較を行う。また、現地状況写真を用いて、工事前後において比較を行う。



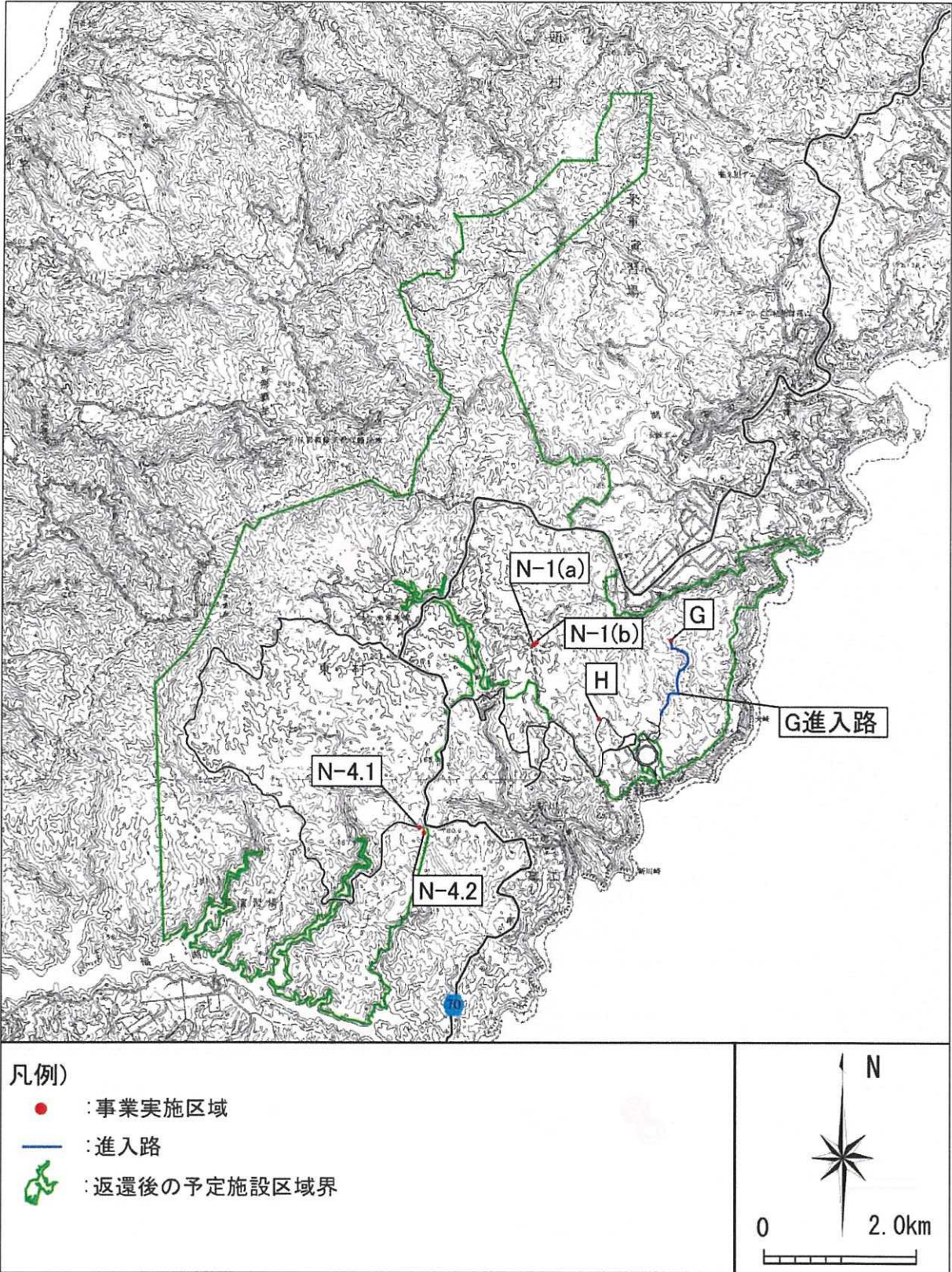


図 9-1 事業実施区域及びその周辺位置図(4 地区計 6 ヶ所)



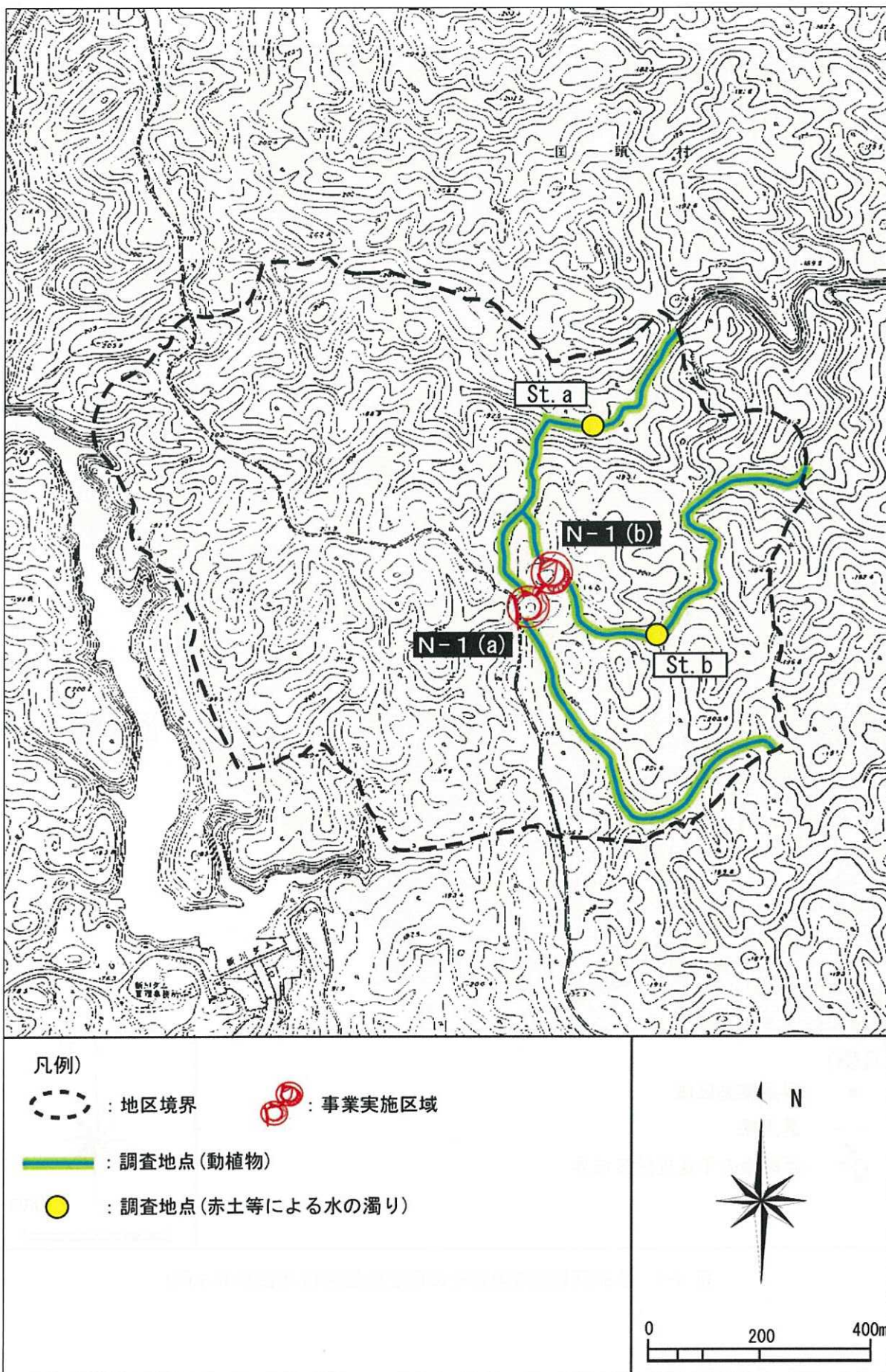
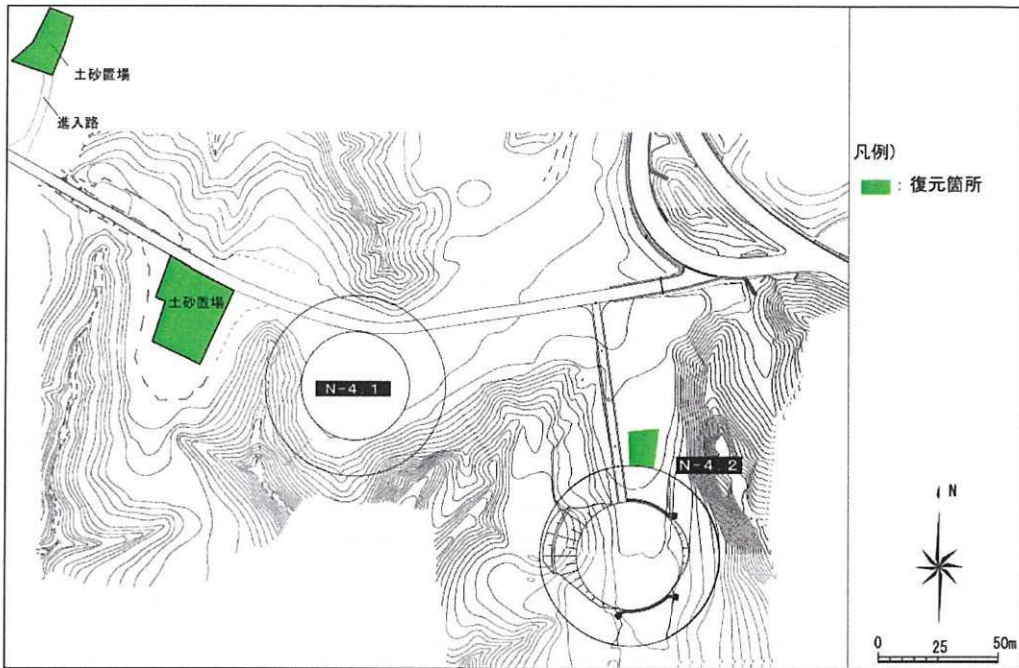


図 9-2 流下経路の調査地点 (N-1 地区)





注) 復元箇所は、赤土等流出防止対策を実施しており、周辺環境への影響が生じないように配慮している。  
 図 9-3 工事による副次的影響の復元箇所調査地点 (N-4 地区)

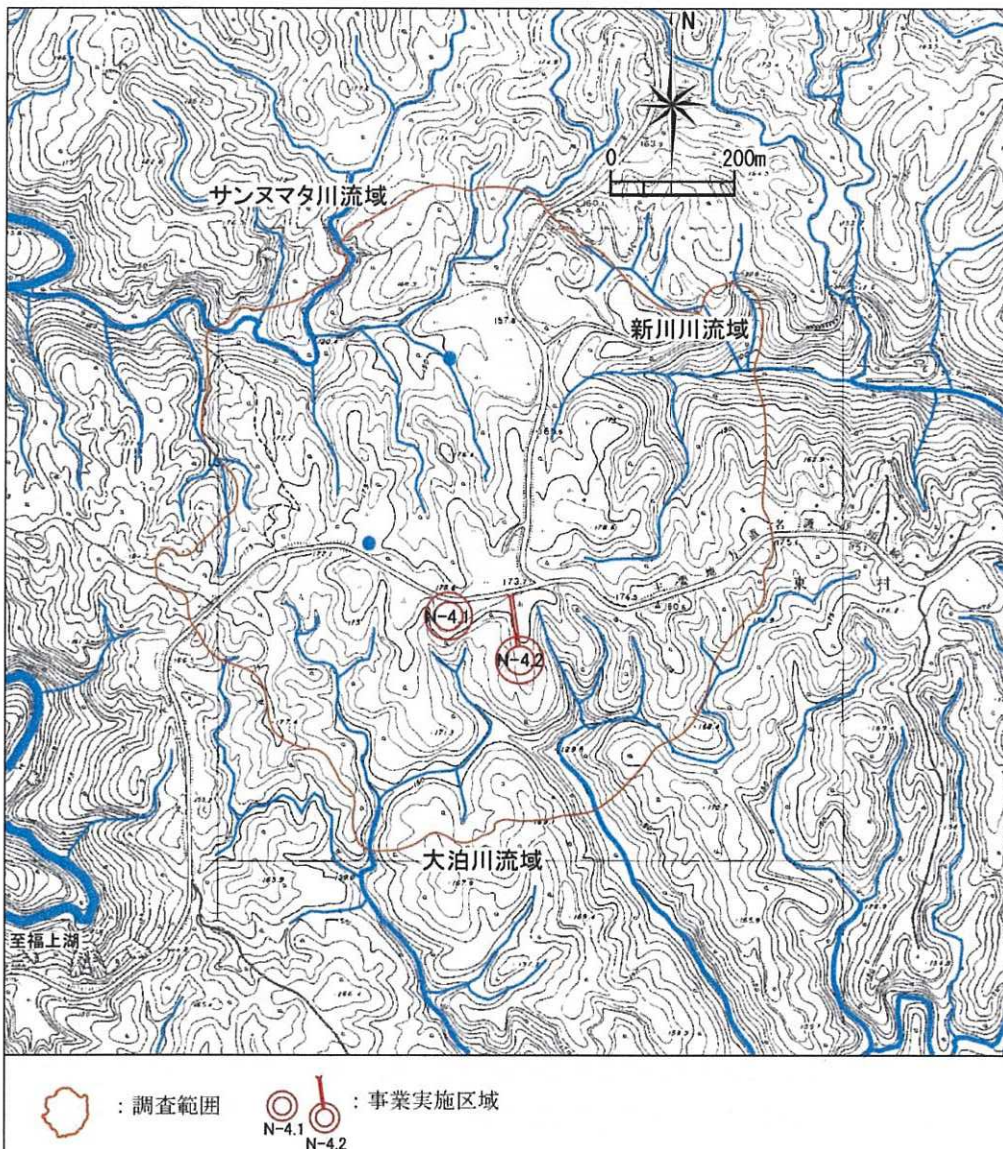


図 9-4 存在・供用時の動物・生態系調査範囲 (N-4 地区)

## 9.2 環境保全措置は継続して講じる必要はあるが事後調査は継続して行う必要がない場合の、継続して講じる環境保全措置の項目及びその理由並びに継続して行う必要がない事後調査の項目及びその理由

N-4.2の残工事の施工期間においては、騒音対策(低騒音型・排出ガス対策型の機械の使用等)、赤土等流出の発生源対策(裸地面のシート被覆、早期緑化)、動植物の影響回避(周辺への無用な立入制限)等の工事中に実施する環境保全措置を引き続き実施する。

N-4.2の残工事の実施に伴う事後調査の実施の有無について表9-2に整理した。

騒音調査(建設作業騒音)については、残工事が取付道路の仕上げと張芝のみであり、平成25年度の工事ピーク時における騒音は評価図書で示した予測値以下であったことから、残工事に伴う建設作業騒音の影響がほとんど無いと考えられることから実施しない。騒音調査(道路交通騒音、交通量)については、残工事が取付道路の仕上げと張芝のみであり、建設資材等の運搬がほとんど無いと考えられることから実施しない。

赤土等による水の濁り調査については、濁水処理設備の設置は予定していないことから、濁水処理水のSS濃度の調査は実施しない。造成工事後に行う河川の赤土等の堆積状況の調査は、造成工事を実施する場合にその終了後に実施する項目であり、残工事では造成工事を予定していないことから実施しない(平成25年度に実施済)。下流河川でのSS濃度、濁度については、着陸帯部分は完成していることから、存在・供用時の調査に移行して実施する。

植物調査については、処理排水の放流は予定していないことから、流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布調査は実施しない。事業実施区域における貴重な植物の移植は、平成25年度までに移植済であることから実施しない。事業実施区域における貴重な植物の移植後の生育状況は、新たな移植は生じないことから実施しない。

動物調査については、残工事の施工区域は平成25年度に貴重な動物の移動が行われ、平成26年3月末現在においてシート被覆が行われていることから、事業実施区域における貴重な動物種の生息状況は実施しない。ただし、施工区域周辺における貴重な動物種の生息状況は、存在・供用時の調査で把握する。流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況は、処理排水の放流は予定していないことから実施しない。建設機械の騒音の状況及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況は、残工事が取付道路等の舗装仕上げと張芝のみであり、建設作業騒音の影響がほとんど無いと考えられるため実施しない。ただし、施工区域周辺における貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況は、存在・供用時の調査で把握する。工事用車輛の走行に伴うロードキルの状況は、残工事が取付道路の仕上げと張芝のみであり、建設資材等の運搬がほとんど無いこと、また、N-4地区では昨年度まで事故多発地点が確認されていないため、ロードキルの影響はほとんど無いと考えられることから実施しない。



表 9-2 事後調査項目及びその内容(N-4.2 残工事)

影響要因		調査項目	実施しない場合の理由
環境要素	影響要因の区分		
騒音	建設機械の稼働	建設作業騒音	残工事が取付道路の仕上げと張芝のみであり、平成25年度の工事ピーク時における騒音が評価図書で示した予測値以下であったことから、建設作業騒音の影響がほとんど無いと考えられるため実施しない。
	建設資材等運搬車両の走行	道路交通騒音 交通量	残工事が取付道路の仕上げと張芝のみであり、建設資材等の運搬がほとんど無いため実施しない。
赤土等による水の濁り	造成等の施工による一時的な影響	下流河川でのSS濃度、濁度	着陸帯部分は完成していることから、存在・供用時の調査に移行して実施する。
		濁水処理水のSS濃度	濁水処理設備の設置は予定していないことから、実施しない。
		河川の赤土等の堆積状況	本調査は造成工事終了後に実施するが、残工事は造成工事を予定していないことから実施しない(平成25年度に実施済)。
植物	造成等の施工による一時的な影響	流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布状況	処理排水の放流は予定していないことから、流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布調査は実施しない。
		事業実施区域における貴重な植物の移植	施工区域においては、平成25年度までに実施済であることから実施しない。
		事業実施区域における貴重な植物の移植後の生育状況	施工区域において、新たな移植は生じないことから実施しない。
動物	造成等の施工による一時的な影響	事業実施区域における貴重な動物種の生息状況	施工区域は、平成25年度に貴重な動物の移動が行われ、平成26年3月末現在においてシート被覆が行われており、貴重な動物種が生息していないことから実施しない。 施工区域周辺における貴重な動物種の生息状況は、存在・供用時の調査で把握する。
		流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況	処理排水の放流は予定していないことから、実施しない。
	建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響	建設機械の騒音の状況及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況	残工事が取付道路の仕上げと芝張のみであり、建設作業騒音の影響がほとんど無いと考えられるため実施しない。 施工区域周辺における貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況は、存在・供用時の調査で把握する。
	建設資材等運搬車両の走行	工事用車両の走行に伴うロードキルの状況	残工事が取付道路の仕上げと張芝のみであり、建設資材等の運搬がほとんど無いこと、また、N-4地区では昨年度まで事故多発地点が確認されていないため、ロードキルの影響はほとんどないと考えられることから実施しない。

9.3 継続して環境保全措置を講じる必要はないが事後調査は継続して行う必要がある場合の、継続して講じる必要のない環境保全措置の項目及びその理由並びに継続して行う必要のある事後調査の項目及びその理由

当該項目に係る平成26年度の事後調査計画(案)を表9-3に示した。

動物調査の「貴重な動物の移動後の生息状況」については、評価図書の事後調査項目に無く、新たに追加して実施した項目であるが、学識経験者の助言に従い移動後1年間の継続調査を行うこととする。

N-4.1 西側の崩落地については、復旧後の平成 25 年度末において大きな変化もなく安定しているところであり、新たな環境保全措置を講じる予定はないが、平成 26 年度も確認を行う。

表 9-3 事後調査項目及びその内容

調査項目		調査回数	調査地点	調査手法
動物	貴重な動物の移動後の生息状況	・2回	・貴重な動物の移動地点	・N-4.2の事業実施区域内に生息する貴重な動物を移動した地点において、移動能力が低い動物について、目視で移動後の生息状況を確認する。
その他	復旧後の監視	・4回	・N-4.1崩落地の復旧場所	・N-4.1崩落地の復旧場所において、植生の回復状況等の変化を写真撮影により記録する。

#### 9.4 継続して講じる必要のない環境保全措置の項目及びその理由並びに継続して行う必要のない事後調査の項目及びその理由

平成 25 年度までに実施した環境保全措置の中で、N-4 地区の工事中に実施する環境保全措置については、工事の完了に伴い終了する。また、平成 25 年度までに実施した事後調査項目の中で、N-4 地区の工事中に実施する項目である騒音調査（建設作業騒音、道路交通騒音、交通量）、赤土等による水の濁り調査（濁水処理水の SS 濃度、河川の赤土等の堆積状況）、植物調査（流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布状況）、動物調査（事業実施区域における貴重な種の生息状況、流下経路に生息する貴重な両生類・魚類・水生昆虫類の生息・繁殖状況、建設機械騒音の状況及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況、工事用車輛の走行に伴うロードキルの状況）については、工事終了に伴い調査を終了し、供用・存在時の調査へと移行する。

植物調査の「貴重な植物種の移植後の生育状況」は、N-4 地区の 1ヶ所(N-4①)に生育する 2 株については、移植後約 7 年が経過し、移植株では新芽の展開も毎年確認しており、環境に順応したと考えられることから調査を終了する。

#### 9.5 事後調査の結果及び前述した「9.1」から「9.4」までに掲げる事項を踏まえた、対象事業の実施に係る環境影響の総合的な評価

当該事業に伴う工事は、N-4.1（平成 24 年度完成）、N-4.2（平成 25 年度工事実施）で行っており、その期間を含む平成 19 年 7 月から平成 26 年 3 月までの期間における調査の結果をみると、事業の実施に伴う環境への影響については、現時点では概ね評価図書で想定した範囲であると評価した。なお、MV-22 オスプレイの実機調査の実施については、環境影響評価で実施する事後調査において、供用後の騒音調査や動植物及び生態系に係る調査を行うこととしており、当該調査により環境の保全について適正な配慮ができるものと考えていること、また、「事業着手後の環境影響評価の再実施についても条例等の規定はない」（平成 25 年 10 月 4 日環正第 973 号 P6）ことから、当局としては、実機調査については実施しない考えである。なお、米軍に対し、MV-22 オスプレイを始めとする米軍所属航空機の運用の際には、北部訓練場エリアの環境への影響を極小化するよう引き続き求めていく考えである。

表 9-4 に、各調査項目の総合的な評価を示した。

表 9-4(1) 各調査項目における総合評価(工事前～工事中:N-4.2)

調査項目		評価結果
騒音	建設作業騒音	工事中における時間帯区分の平均値は、東村高江で35dB(a)、東村車で37dB(A)であり、工事に伴う影響は確認されなかった。
	道路交通騒音、 交通量	工事中における時間帯区分の平均値は、国頭村安波で53dB(A)、東村平良で57dB(A)であり、工事に伴う影響は確認されなかった。
赤土等による水の濁り	下流河川でのSS濃度、濁度、流量	平成25年度の平常時におけるN-4.2下流の沢でのSSは、1mg/L以下であり、工事に伴う影響は確認されなかった。 土工事実施中の降雨時SSにおいては、36～51mg/Lと低い値であり、工事に伴う影響は確認されなかった。 濁水処理設備における処理水は、全てSS換算濃度25mg/L以下であり、平成25年度の土工事に伴う濁水は適切に処理されていた。 下流河川におけるSPRSでは、赤土等の堆積状況の悪化は確認されなかった。
植物	流下経路における貴重な植物種及び溪流河岸植生の生育・分布状況	流下経路における貴重な植物種については、平成25年度の調査において、赤土等の濁りによる生育状況の悪化等が見られなかった。また、溪流河岸植生においても、生育・分布状況に変化は見られなかった。
	林内の気温・湿度	伐採後の調査は、秋季から冬季の約5ヶ月分しかないため、現段階では乾燥化等の影響を把握することは困難である。次年度以降にデータを蓄積し、周辺林内の乾燥化が生じているかを検証する予定である。
	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況は、貴重な植物種の減少等の変化は確認されていない。
	早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況	早期緑化帯においては、平成26年度末現在で裸地面は存在しておらず、植栽等の実施を行っていることから、次年度以降に植被率の増加が見込まれる。
動物	事業実施区域における貴重な動物種の生息状況	平成25年度の調査においては、生息状況の悪化は確認されなかった。また、工事前に移動した個体( )、( )は、環境の変化に伴い変動はみられるものの、新たな環境において生息しているものと判断した。
	流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況	平成25年度の調査においては、赤土等の流出により流下経路の生息・繁殖状況が悪化している状況は確認されなかった。
	貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況	平成25年度の調査においては、近傍で( )や( )等の家族群や幼鳥も確認しているほか、( )や( )の繁殖を確認しており、周辺の繁殖状況が悪化している状況は確認されなかった。
	建設機械騒音の状況及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況調査	工事ピーク時期の重機の稼働状況において、繁殖地における騒音状況は、等価騒音レベルの時間帯平均は42 dB(A)であり、評価図書の影響レベル70dB(A)と比較して低い値であった。
	工事用車両の走行に伴うロードキルの状況	ロードキルが確認された動物は4個体であり、事故多発地点は確認されず、工事用車両の走行に伴う影響は低減されているものと判断した。



表 9-4(2) 各調査項目における総合評価(存在・供用時:N-4.1)

調査項目		評価結果
水 赤土等による濁り	下流河川でのSS濃度、濁度、流量	平成25年度の平常時におけるN-4.1下流の沢でのSSは、1mg/L未満であり、事業実施に伴う影響は確認されなかった。 存在・供用時における降雨時SSにおいては、評価図書の予測値を下回っており、その数値は4~31mg/Lと低い値であり、事業実施に伴う影響は確認されなかった。
植 物	貴重な植物種の移植後の生育状況	N-4地区及びH地区は、移植した76株のうち、65株が生存しており、全体の生存率は86%である。地区別にみると、N-4地区においては、移植した35株のうち25株が生存しており、生存率は71%であった。H地区においては、移植した41株のうち40株が生存しており、生存率は98%であった。 N-4地区の移植地点別の生存率は、N4①において、 <input type="text"/> 17%(1株/6株)、 <input type="text"/> 33%(1株/3株)、 <input type="text"/> 0%(0株/1株)であった。N4②においては、 <input type="text"/> 100%(6株/6株)、 <input type="text"/> 100%(2株/2株)であった。N4③において、 <input type="text"/> 92%(12株/13株)、 <input type="text"/> 75%(3株/4株)であった。 N4①以外では、移植した株の生存率は高く、移植株の開花や結実、新芽の展開等も確認された。 今後の移植にあたっては、N-4地区での移植結果を踏まえ、移植作業に反映する。
	林内の気温・湿度	林内の気温・湿度については、林内の調査地点において、大きな変動は確認されていない。
	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況は、生育する貴重な植物種の減少等の変化は確認されていない。
	早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況	早期緑化帯においては、マント群落・ソデ群落及び無障害物帯におけるモニタリング調査の結果、植被率の増加傾向が確認された。
動 物	周辺林内の乾燥化による貴重な動物種の生息状況	平成25年度の調査においては、生息状況が悪化している状況は確認されなかった。
生 態 系	ノグチゲラの人工採餌木の利用状況	平成23年2月に設置した3ヶ所の <input type="text"/> 、平成25年度冬季現在で、 <input type="text"/> 。
	生態系注目種(20種)の生息・繁殖状況	平成25年度では、生態系を特徴する注目種はN-4地区の <input type="text"/> 、 <input type="text"/> 傾向はみられない。確認できなかった注目種は、 <input type="text"/> <input type="text"/> N-4地区では <input type="text"/> であった。 外来種(肉食獣)は、自動撮影装置により、ノネコが2個体確認された。マングースについては、平成25年度の調査では確認されなかった。
景 観	困繞景観	困繞景観では、N-4地区全体では大きな変化は確認されていない。

第10章 事後調査を委託された者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地  
当該事後調査は以下に示す者に委託して実施した。

【平成 23 年 3 月 17 日～平成 26 年 3 月 31 日】

株式会社 沖縄環境保全研究所

代表取締役 平良辰二

〒904-2234 沖縄県うるま市字州崎 7-11

TEL (098)934-7020

FAX (098)934-7021

【平成 20 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日】

株式会社 ニュージェック 沖縄支店

支店長 寺尾敏男

〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅 3-22-33

TEL (098)860-5715

FAX (098)860-5716

【平成 19 年 3 月 29 日～平成 22 年 3 月 31 日】

復建調査設計株式会社 福岡支社

支社長 福田直三

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-17-19

TEL (092)471-8324

FAX (092)415-3751